

- 1 日 時 平成27年2月20日(金) 10時～12時
- 2 場 所 京都市教育相談総合センター 会議室
- 3 出席者 東・今井・岩井・梅山・奥村・桶谷・小槻・坂根・坂本・柴原・新家・須川・高田・中条・中村・野田・松宮・安見(委員は50音順、敬称略)

4 内容

- (1) 開会
- (2) 報告・協議等
  - 「京都市いじめの防止等取組指針」について
  - 「いじめの防止等のパンフレット(素案)」について
  - 「いじめの防止等の取組状況」について(小・中学校長会から説明)
  - 「平成26年中の少年非行情勢」について(京都府警本部報告)
- (4) 閉会

\*京都市いじめの防止等取組指針について  
(事務局からの説明)

- 「いじめの防止等取組指針」は、前回会議で頂いた御意見も踏まえ1月末に策定・広報発表等した。(委員からの主な意見や報告、説明)
- 重大事態も含め、いじめ事案の「解消」については、形式的に解消を判断するのではなく、取組指針の記載にあるように、個々の状況を踏まえ、継続的に丁寧な見守りが必要であると思う。
- いじめ対策委員会で扱った事案について、この様な専門家などが集まる場で検証できれば、同種事案の発生の予防に資することができると思う。
- いじめ事案の情報が、学級・学年だけでストップしないよう、また、進級時などにも学年をまたがり引き継がれ、学校内で共有されることが重要であると思う。

\*いじめの防止等のパンフレット(素案)について

- 中・高校生版について、いじめの傍観者の中には、何とかしてあげたいが、どうしてよいか分からずに悶々としている子どももいるため、いじめの4層構造の図に「相談者」を入れて頂きたい。
- 保護者版について、各団体等が行っている相談窓口も記載して頂きたい。スペースの都合もあるだろうが、工夫してほしい。
- 小学4～6年生版と中・高校生版のP4について、「いじている子の思い」と「いじめられている子の思い」では、いじめられている子の記載が先にある方が良いと思う。

\*小学校のいじめの防止等の取組状況

- 「いじめは教職員の児童感や指導の在り方が問われる問題」として、心の教育を充実させ、子ども同士の互いに認め合える人間関係づくりや、自己肯定感・自己有用感を高める学校づくりに力を入れている。大切なことは、人権感覚を養い、「心の結びつき」や「社会性」を育み、いじめに向かわない態度・能力を育成すること。子どもに見せる学校現場での大人の姿として、教職員自身が人権感覚を磨くこと、日々の指導の在り方が子どもたちの心をつくるということ、子どもたちには許されない行為には憤りを持てるような感覚、問題を解決する行動力を付けることが重要である。

\*中学校のいじめの防止等の取組状況

- 良いことや悪いこと、小さなトラブルなどを繰り返しつつも、全体として良い方向へ導いていくのが中学校の役割と思う。本校では、生徒会が中心となって、子どもたちが主体的に福祉や世界に目を向けた活動に取り組むとともに、校内での足元をしっかりと見つめた取組も進めている。地域などに迷惑をかけることもあるが、打てば響く子どもたちで誇りであり、生徒と教職員のつながりを大切に、アンケートなども活用しつつ、生徒・教職員・地域・保護者と協力して、いじめの問題も含め、さらに学校が良くなるよう取り組んでいきたい。
- クラスに弁護士が行く出前授業や学校いじめの防止等基本方針の見直しなどに弁護士会の法教育委員会を御活用頂きたい。
- 人権感覚を育て、いじめをなくしていくため、法務局と人権擁護委員連合会が行う人権教室や人権作文コンテストなどを御活用頂きたい。
- 幼稚園では、いじめに繋がる芽(言動)に注意し、全教職員で共通理解・認識の下、取り組んでいる。
- 学校いじめの防止等基本方針は、校長先生からPTAに御説明頂いたうえで共通理解させて頂きたい。
- いじめられる子どもには、発達の課題などが見られる場合があり、教師も含め大人は、けんか両成敗のように両者を指導する傾向があるが、「いじめはどんな場合でもいけない」ということ、両者を分けて指導することが必要である。このことは大人の課題であり大人が注意する必要がある。

\*「平成26年中の少年非行情勢」について

- 5年連続で減少した「刑法犯少年」の包括罪種別等の状況では、凶悪犯、粗暴半等は減少した一方で、自転車盗や万引きなどの窃盗犯は増加した。窃盗犯の中では万引きが最も多く、次いでオートバイ盗、自転車盗であり、少年非行の防止のため、オートバイはキーを抜く、自転車は施錠することを呼びかけていきたい。また、刑法犯少年の学種別の状況について、前年比では中高校が減少し、小学生は増減なしだったが、小・中学生では万引きが増加、高校生では自転車盗が増加した。非行防止教室や立ち直り支援活動等、引き続き、「少年の心」「親心」「育てる心」の3ハートに響く諸対策を推進していくので、連携・協力をお願いしたい。